

Contents

1. N RESIDENCE utide.....031
2. K RESIDENCE / 桑原聡建築研究所.....040
3. T RESIDENCE / Tokyo pm050
4. I RESIDENCE / 田頭健司建築研究所 田頭健司+蓮池亜紀.....063

SUSTAINABLE HOME PLANNING.....072

PRODUCTS.....086

Long Life
Comfort

年を経ても暮らせる心地良い住まい

子どもの独立や親との同居など、新たなライフステージを迎える50代・60代。

子ども部屋を夫妻の個室にしたり、歳を重ねても快適に過ごせるよう

手すりやエレベーターを設置するなど、年代によって住まいに求めるものは変化する。

真に心地良い住まいとは、その時々暮らしに対応でき、長く住み続けられるものではないだろうか。

今回は、豊かな余生を過ごすためにリノベーションした4軒の住宅を紹介すると共に、

部屋の配置や階段のつくり方、温熱や色彩など室内環境の設計ポイントを解説。

さらに、デザインや機能に優れた手すりや階段昇降機などのアイテムも紹介する。

東京・品川に二つは番マンションの一室を改装したN邸。リビング&ダイニングに設置する高さ1700mm、幅1200mmのオープンシェルフは、リビングからダイレクトにアクセスできる収納の両側扉(W1200mm×H2500mm)を空け、上下の移動できるJうにした。扉はアイランドのインテリア家具メーカー、Wrightに特注したもので、扉の厚さを設定、すっきり見えるよう、あえて枠を設けた。ダイニングの壁は一面のみをフルブルーに塗装し、塗り紙の棚(W2535mm×D325mm)も同色に仕上げた。また、特注したアメリカ・JONATHAN ADLERのマスターチェアのパーソナルソファを置いてアクセントにしている。



1.

モダンでシックなインテリアをかなえた終の住処

N Residence Shinagawa-ku, Tokyo

Interior Design : outside Photographs : Nocasa & Partners Text : Asuka Kobata



星本まゆみ(本家)の住居(3LDK)の一角。奥手には、N邸のオーナーは、1998年に建てられたこのマンションの一室を新築時に購入。20年以上を経て、今後も終の住処としてここで暮らし続けることを考え、これからのライフスタイルに合う住まいのかたちを求めていた。

住まいにおいて夫妻が何よりも大切にしていたのは、「リラックスして過ごせる心地良い空間」。具体的な希望の一つが、住まいのどこにいても一定の温度が保たれ、裸足で歩いて気持ちが良い床といった快適な室内環境。もう一つはモダンでシックなインテリアだった。これらを前提に、本誌で知ったインテリアデザイナーの齊藤美紀さんにリノベーションを依頼した。

N邸の東側にあるエントランスを入ると、右手の北側に主寝室、左手にはゆったりとした廊下が続き、突き当たりの南側にリビング&ダイニングが広がる。南側をバルコニーに面し、街の景色を一望できる住まいは明るく開放的な印象だ。プランは既存から大きく変えず、廊下沿いの西側に書斎、東側にキッチンがあり、各空間からリビング&ダイニング、廊下へと回遊できる配置。書斎はもとも個室で、書籍を置いていたものの収納スペースのように使用していた。そこで齊藤さんは、リビングとの間の壁を取り払い、天井高まであるガラスの両開き扉と書棚を新設。書棚は両側から使用できるデザインとし、扉によって空間をつなぐことで行き来しやすい書斎として機能させた。扉を閉めても視線が通り、リビングと書斎に広がりを与えている。幅1200mmの廊下は、幅を狭めて居室を広くする案もあったが、万一車イスを使用しなければならなくなった場合を考慮し、既存を生かすことに。そのほか、エントランス側のトイレは廊下側に200mm広げ、約2.5mの二重にしたスペースを確保している。

また、齊藤さんは以前から夫妻がリビングのドアを常に開放して過ごしていたことに着目。下に面する主寝室や洗面室、書斎、キッチン、扉を引き込み戸に変更し、戸を閉めた状態でも扉の軌跡を小さくし省スペースを実現した。



下 リビングとひとつながりになったダイニング(CH2350~2500mm)、以前から愛用していたイタリア・driadeのカップボードは、シルバーだったフレームを黒く塗装。同国・Poltrona Frauのダイニングチェアはクラシックテーストが強かったため、アメリカ・Kravetのフルーのファブリックとイギリス・VILLA NOVAのグレーのファブリックでカバーリングを特注した。天板から高さ700mmに吊ったゴールドと黒の真鍮製ペンダントライトは、アメリカ・ARTERIOSで新たに購入したもの。左手の壁に掛けたアートは妻が父から譲り受けた。日本画家の平山郁夫の水彩画。アートや家具が映えるよう、壁は白のビニルクロスで仕上げ。リネンのカーテンも同色に。腰窓は床までカーテンを垂らし、エレ

ガントな佇まいを演出した。左手はキッチンに続く。左ダイニングからリビングを見る。造作したテレビボード(W2605mm×D400mm×H2500mm)は、上部にプロトックのハネル型冷暖房システムを設置。このほか、住まいの随所にパネルを設け、放射熱により音や風がなく室温をコントロールできる。床暖房を設置しなくても快適な温熱環境をかなえた。何よりシンプルで、デザインが空間に溶け込み、パーティションとして使用できるのがメリットだ。フローリングにはなぐり加工を施したオーク無垢材を採用し、裸足で歩いて気持ち良い床という当初からの要望を反映。白をベースに、ドアのアイアンとフローリングの木が生きた気持ちの良い空間となっている。



「壁は白をベースに、アクセントカラーとして、リベリク&ダイニングや寝室、洗面室など、設置したい場所にあらかじめ配管や電気配線を通し、壁のサイズに合わせて特注。パネルは壁と同じ白を選び、デザインもシンプルなため、インテリアにさりげなく溶け込ませた。そのほか、廊下の壁に手すりが必要になる可能性も視野に入れ、450mmピッチで入った軽鉄骨の角材を下地にすることを想定している。」

「N邸の魅力は、終の住処としての設計を見た目を感じさせない、モダンでシックなインテリア。深層で歩きたいという要望から、フロアリングはオーク無垢材を採用、なぐり加工が施されているため、わずかな凹凸が心地良い足触りをおこなえ、空間には豊かな表情を添える。壁は、要か父から譲り受けたアートが映えるようマットな手触りの白いビニルクロスで仕上げ、リネンのカーテンも白に統一。また、リベリク&ダイニングや書斎はフルグレ、ゴールド、マスタードイエロー、寝室はピンクグレーとテリマカラーを決め、差し色として家具の素材や張りに反映し、上質なインテリアを実現している。さらに、家具はすべてを一新するのはなく、愛用していたものを再利用。たとえば、L字型のソファは分解して三人掛けと一人掛けに組み直し、ブルーとグレーの生地を新調。ダイニングチェアは脚まで覆うカバリングを特注するほか、シルバーだったカップボードは黒く塗装してモダンでシックな空間に調和させた。」

「既存を生かしながら、内装や建具、家具に手を加えて生まれ変わらせたN邸。夫妻のこれからの暮らしを暖かく包み込む住まいが実現した。」



右側に設置し、明るく開放的なリベリク&ダイニングソファは、旧着から愛用していたイタリヤ、CasellaのL字型の(L-shaped sofa)を分解し、主寝室の壁際に三人掛けと一人掛けに、ブルーとグレーの生地を新調して組み直し、ダイニングチェアは脚まで覆うカバリングの特注品をオーダー。また、シルバーだったカップボードは黒く塗装してモダンでシックな空間に調和させた。

右 キッチン(CH2350mm)は既存を生かした配置に。夫妻共に料理が好きなことから、より使いやすく広々としたスペースを確保するため、洗濯機置き場や収納などを撤去して壁付けのI型カウンターをL型(W3255+915mm×D6650mm×H850mm)に変更。天板下の既存のキャビネットを組み替えて機器の場所を移動し、天板や面材、機器のみを一新することでコストダウンを図っている。天板にはクォーツストーン、面材にはオーク材突き板を採用。上部の吊り戸棚には一部に180度開く蝶番を取り入れ、調理中は開け放したまま使えるようにするなど、細やかな工夫を施した。正面のダイニングとの間はガラスとアイアンを組み合わせた引き戸を設置。右手前は廊下につながる。右下 廊下からキッチンを見る。普段は開け放しておけるよう、廊下につながるドアは、引き込み戸(W810mm×H2000mm)に変更。キッチンの床は、皿を落としても割れにくいサイサル風のヒコルシートで仕上げた。



右 エントランス側に設けたトイレ (CH2150mm) は既存の位置をそのままに、廊下側へ奥行き200mm拡張、幅1250mm、奥行き1830mmの広々とした空間とし、介助が必要になった場合も対応できる広さとなっている。ラグマットに特化した車洗いカウンター (W1140mm×D300mm×H850mm) は天板に大理石、面材にオーク材突き板を採用。ミラーや水栓などにコールトを取り入り差し色にして、品質を雰囲気を演出している。右下 エントランスから引き込み戸を介して続く明るい洗面室 (CH2090mm)。キッチンカウンターと同様に洗面カウンター (W2006mm×D560mm×H810mm) も既存のキャビネットを専用品。天板のみ一新し、天板は大理石、面材はオーク材突き板で仕上げた。天板の見付けは厚さ70mmにして車寄せをプラス。左手前にはランドリーと愛犬「フィフ」のスペースを確保した。左手奥が浴室。正面のドアは舌留のバルコニーへつながる。下左 自然光が差し込む浴室 (CH2000mm)。床は洗面室と同様のグレーの磁器質タイル (400mm角)。壁とバスタブ脇の立ち上がりは大理石貼りとし、ゼノトーンでシックにまとめた。バスタブはセラトレーディング。シャワー水栓やドアハンドルはフオンテレーディングのもの。





幅1200mmのゆったりとした廊下(CH2150~2500mm)は、狭めて居室を大きくすることも考えたが、将来的に車イスで移動したり、方向転換できるよう既存の幅のままとした。正面のリビング&ダイニングへつながるカラスの両開きドア(W1200mm×H2500mm)は、枠を設けずすっきりと見せ、廊下に自然光を導いている。室内のドアはすべて敷居を設けず、つまずきやすい小さな段差をなくし、居室へのドアは幅790mm以上にして車イスの通行を考慮した。廊下の壁には軽量鉄骨の角材が450mmピッチで入っているため、手すりが必要になった場合も取り付けが可能。左手前のドアがトイレ、その奥のドアがキッチンにつながる



自然光が回り込む明るいエントランス (CH2100~2150mm)。既存では右手の壁に主寝室とウォークイン・クローゼットへアクセスする二つのドアがあったが、エントランスにアートを飾る壁を設けるため、主寝室からクローゼットに入るプランに変更。壁と三和土を拡張し、右手の壁には天井から高さ910mmの位置まで下地を入れた。ホワイエをイメージして大理石を貼った三和土には、真鍮でラインをデザイン。シューズクローゼットのつまみやシーリングライトにもゴールドを取り入れることで、一体感をもたせた。正面がバスルーム、左手に廊下が続く

DATA

構造と規模/RC造 地上6階建てマンションの一室
 床面積/115.71㎡
 家族構成/夫(50代) 妻(50代) フィフィ(犬) ウェルシュテリア、15歳
 ※設計データは214頁に掲載



- 1 ENTRANCE
- 2 CORRIDOR
- 3 TOILET
- 4 KITCHEN
- 5 DINING
- 6 LIVING
- 7 STUDY ROOM
- 8 STORAGE
- 9 POWDER ROOM
- 10 BATH ROOM
- 11 LAUNDRY
- 12 MASTER BEDROOM
- 13 WALK IN CLOSET
- 14 BALCONY





エー北側には既存の玄関窓 (H2285mm) はピンク
 クレークテーマカラー。ベッドは以前から使用して
 い (Marlax) の木製フレームを生かし、ヘッドボードに
 マンション材をえ入れ、ピンククレークのフッポリフを
 張り込んだ。グレーのリイドテーブルはアメリカ
 Restoration Hardware を購入。ヘッドボード上部の
 アートはアメリカ人アーティスト、Joanne Isaac のも
 ので、この壁画を始め、アートを設置する可能性のある
 箇所に口下地を挿れさまざまな大きさのものを
 自由に飾れるようにしている。正面奥の窓辺には旦那
 のメークコーナーを用意。カウンター (W2400mm×
 D600mm×H780mm) を特注してピンククレークに塗装
 し、ホルトカル・Manna で購入したイスを組み合わ
 せた。メークだけでなくパソコンや書き物などもで
 きる場所になっている。右手奥の壁にはプロトテック
 のパネル型冷暖房システムを設置。左側書斎の
 個室は、主寝室を介してアクセスできるウォークイ
 ンクローゼットに変更。左手には主婦客との間仕
 切りを兼ねてパネル型冷暖房システムを設置し、ハー
 ティンションとしても機能させた。